

知床の世界自然遺産登録前後における観光利用の変化と課題



目 次

1．斜里町および羅臼町の観光客の入込み状況	1
1 - 1．斜里町	1
1 - 2．羅臼町	2
2．先端部地区	3
2 - 1．知床岬	3
2 - 2．知床沼	4
3．中央部地区	5
3 - 1．知床五湖園地	5
3 - 2．カムイワッカ地区	6
3 - 3．知床自然センター	7
3 - 4．知床連山	8
3 - 5．羅臼湖	9
3 - 6．羅臼ビジターセンター	10
3 - 7．国道 334 号および道道知床公園線の道路沿線など	11
3 - 8．斜里側海域部	12

1. 斜里町および羅臼町における観光客の入込み状況

1-1. 斜里町

平成17年4月から6月にかけての観光客の入込み数は前年を下回ったが、7月以降は入込みが増加した。特に8月から10月は昨年度より20%前後増加している(表1)。また8月以降、宿泊客は前年度より7~12%の伸びであったのに対し、日帰り客は22~25%と大幅に増加した(図1)。平成17年1月から10月までの入込み総数は1,080,798人で前年より7%(71,778人)増加した。

2006年2月より女満別空港にAIR DOが羽田-女満別の便を1日3往復就航する予定であり、来年も利用者の増加が予想される。

表1. 斜里町の観光客の入込み数(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H16年	21,150	124,670	85,081	30,737	91,980	135,958	207,738	311,706	250,628	233,760	33,530	29,648
H17年	23,459	137,952	90,300	28,818	78,682	133,809	220,703	367,075	303,464	281,680		
増減	2,309	13,282	5,219	1,919	13,298	2,149	12,965	55,369	52,836	47,920		
%	111%	111%	105%	94%	86%	98%	106%	118%	121%	120%		

データ: 斜里町観光統計資料

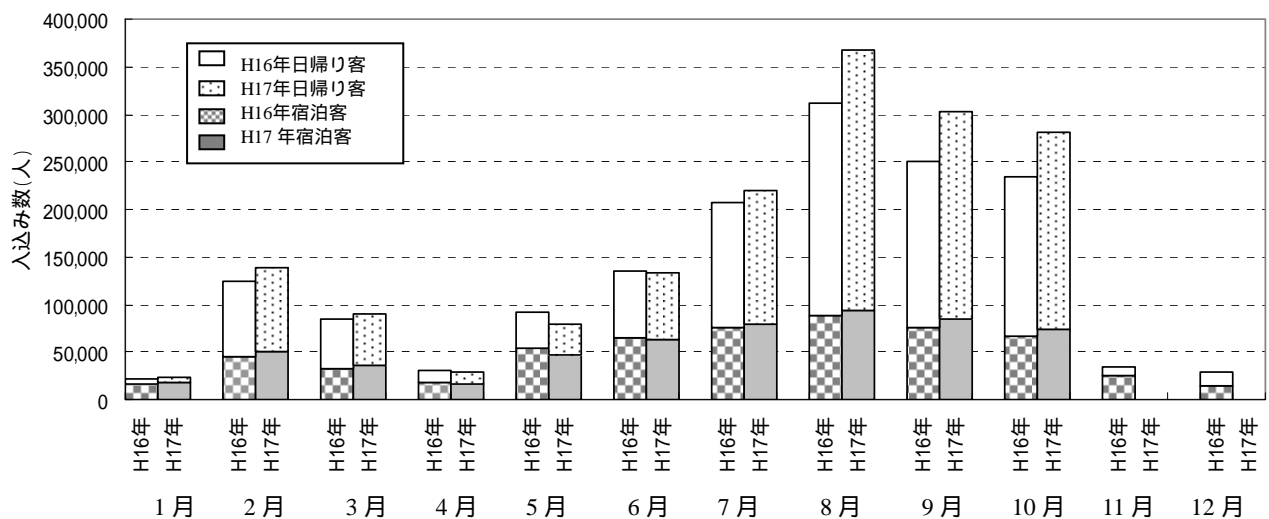


図1. 斜里町における観光客入込み数 年別比較

データ: 斜里町観光統計資料

1 - 2 . 羅臼町

今年は2月と5月の観光客の入込み数は前年を下回ったが、6月以降は前年より6～24%増加した。斜里町の入込みの伸びは8～10月が高かった(18～20%)のに対し、羅臼町の入込み伸び率は6～7月のほうが14～24%と高かった(表2、図2)。平成17年1月から10月までの入込み総数は745,361人となり、前年より6%(42,358人)増加した。

表2 . 羅臼町の観光客の入込み数(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H16年	3,608	6,870	5,959	10,182	75,637	53,537	151,562	200,434	132,020	63,184	5,932	5,418
H17年	3,830	6,745	6,596	11,020	58,120	66,199	173,095	211,834	140,869	67,053		
増減	222	125	637	838	17,517	12,662	21,533	11,400	8,849	3,869		
%	106%	98%	111%	108%	77%	124%	114%	106%	107%	106%		

データ: 羅臼町観光統計資料

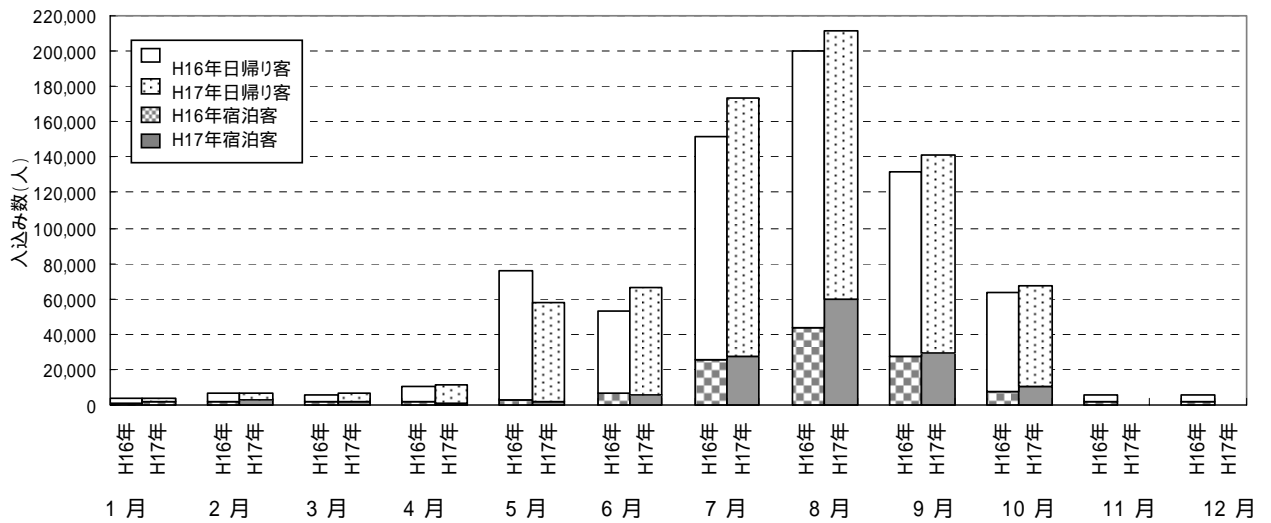


図2 . 羅臼町における観光客入込み数 年別比較

データ: 羅臼町観光統計資料

2. 先端部地区

2-1. 知床岬

6月から10月までの相泊から知床岬方面への徒歩利用者の入込み状況は、カウンターの測定結果で前年は190人程度であったのに対し、今年はおよそ160人と減少した(表3)。

お盆前後の知床岬地区(文吉湾～赤岩)の入込み状況は、ここ数年は10人前後で推移している。動力船による立ち入り者が減少する一方で、徒歩利用者の減少は見られない(表4、図3)。また、1日あたりの推定滞留者数(注1)は平成16年では多い日で43人であったが、今年は55人と増加した。

表3. 知床岬および知床沼方面 カウンターによる入山者測定結果(人)

		6月	7月	8月	9月	10月	計
平成16年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	31	166	109	56	15	377
	知床沼方面入山者(B)	12	94	49	21	11	187
	A - B	19	72	60	35	4	190
平成17年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	29	114	122	38	1	304
	知床沼方面入山者(B)	18	33	69	21	3	144
	A - B	11	81	53	17	2	160

* カウンターの捕捉率(平成17年のみ) 知床岬・知床沼方面：入山0.85、下山1.08

表4. 知床岬地区の立ち入り者数 調査年別比較

調査年	調査期間	調査日数	立ち入り者数		平均人数 (人/日) 文吉湾～赤岩	動力船		シーカヤック		徒歩	
			文吉湾～赤岩	文吉湾～相泊		グループ	人数	グループ	人数	グループ	人数
H8	8/12～18	7	141		20	19	78	6	13	6	50
H9	8/11～16	6	353		59	42	299	4	24	6	30
H10	8/12～21	9	200		22	24	123	5	25	6	52
H13	8/10～13 17～20	6	83		14	12	44	1	2	6	37
H14	8/18～19	12	203		17	34	124	5	21	13	58
H15	8/12～17	6	80	84	13	15	60	1	1	7(9)	19(23)
H16	8/6～16	11	114	149	10	14	69	5	28	9(21)	23(52)
H17	8/12～19	8	66	100	8	8	39	5(6)	15(16)	5(10)	26(45)

* () 内は相泊から赤岩間でカウントされた人数を含む。

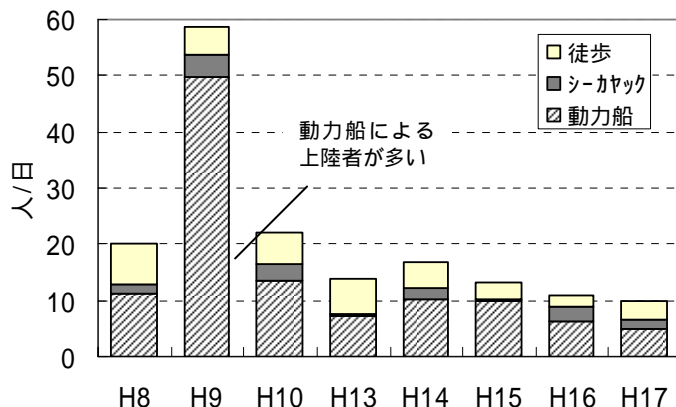


図3. 知床岬地区(文吉湾～赤岩)における立ち入り者平均人数 年別比較



知床岬付近(赤岩)海岸部 徒歩利用者のテント 8月13日

注1. 一日あたりの推定滞留者数とは、その日に知床岬に到着した立ち入り者の数に、同地区に宿泊した前日の立ち入り者の数を加えた人数。

2 - 2 . 知床沼

6月から10月間の知床沼方面への入込みは、前年はおよそ190人であったのに対し、今年度は140人程度と減少した(表5)。入込み数が減少した理由は不明だが、昨年は遺産登録前の駆け込み利用的な傾向があったとみられており、遺産登録後はこの地区が立入禁止になったと誤解されたために利用が抑えられた可能性もある。

知床沼の入込みは、8月6日が最も多く17名(カウンターでの測定値より)、幕営数は3パーティー、テント5張であった(現地調査による目視)。

表5. 知床沼・知床岳方面 カウンターによる入山者・下山者測定結果(人)

		6	7	8	9	10	計
平成16年	入山者	12	94	49	21	11	187
	下山者	11	76	38	21	12	158
平成17年	入山者	18	33	69	21	3	144
	下山者	15	36	40	20	0	111

* 平成16年は、9/19～10/8の間のデータがバッテリー切れのため欠損



知床沼脇で幕営する登山者 8月6日



知床沼周辺の踏付け跡 8月6日

3. 中央部地区

3-1. 知床五湖園地

駐車台数

今年6月以降、知床五湖園地の利用者は急増した。知床五湖駐車場の駐車台数は前年と比べ1ヶ月あたりの1,000~4,000台程度増加した(表6、図4)。

駐車場に入る車両の渋滞

7月1日から9月30日までの92日間のうち、駐車場が満車となり渋滞が発生したのは68日となった。8月中の渋滞発生率は平成15年と比べ19%も高く、10~11時台と14~15時台に多かった。8~9月では駐車場へ入るのに30分以上待つ渋滞が26回発生した。ピーク時には車両の列の長さは最長で1kmに達することもあった。渋滞に関する利用者からの苦情は昨年を上回る件数であった。

表6. 知床五湖駐車場における駐車台数 年別比較

	H16年	H17年	増減	
	(台)	(台)	(台)	(%)
4月	627	489	-138	-22%
5月	7,116	6,060	-1,056	-15%
6月	6,331	8,545	2,214	35%
7月	10,120	14,178	4,058	40%
8月	15,895	20,077	4,182	26%
9月	13,870	16,732	2,862	21%
10月	8,621	11,943	3,322	39%
11月	143	1,159	1,016	710%
TOTAL	62,723	79,183	16,460	26%

データ：(財)自然公園財団



知床五湖駐車場に入る車の渋滞 8月14日

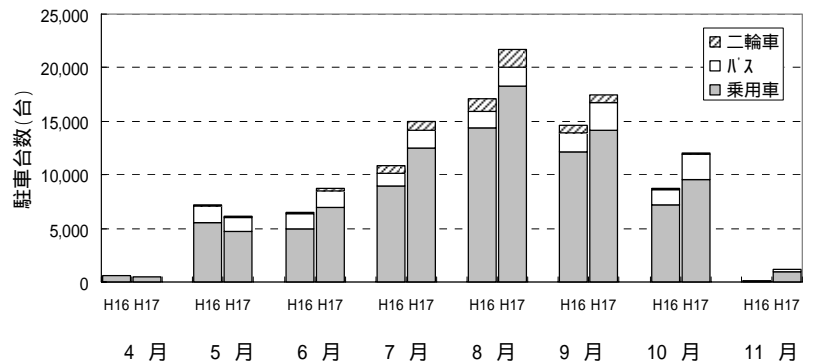


図4. 知床五湖駐車場における駐車台数 年別比較
データ：(財)自然公園財団

遊歩道の利用状況

遊歩道利用者は前年はおよそ50万人だったが、今年は2~3割増の60万人以上になったと推定される(駐車台数とシャトルバス利用者数からの推測値)。昨年は自然ガイド付きの団体が遊歩道内で渋滞を引き起こす状況が目立ったが、今年はガイドの付かない団体が大幅に増え、1~2湖散策ルートは昨年以上に混雑する状況となった。高波や濃霧で観光船が欠航した場合、船に乗る予定であった団体客も殺到するため、1~2湖散策ルート上は切れ目なく人が並んで歩き、立ち止まれない状況となる。また、前年より歩道の幅が広がり、歩道以外で踏付け跡が目立つようになった。



知床五湖駐車場のトイレ渋滞 10月13日 ©環境省



知床五湖遊歩道 9月7日 ©環境省



知床五湖遊歩道 自然ガイドによる引率 8月16日 ©環境省



3湖展望地 踏付け跡 11月1日

3 - 2 . カムイワッカ地区

自動車通行規制期間中における駐車場およびシャトルバスの利用状況

カムイワッカ地区自動車通行規制は前年まで7月下旬から8月下旬までの23日間であったが、今年は道道知床公園線の落石防止工事に伴い、規制期間が7月13日から9月20日までの70日間に延長された。

利用状況

シャトルバスの利用者数は自動車通行規制が開始されて以降、今年は過去最高の人数となった。同じ期間である23日間のみを比べると、昨年より29%増加し21,031人であり(図5)70日間のシャトルバス利用者数は44,227人となった。

利用者の多くは個人客であるが、中には自然ガイドが引率する40人前後の団体ツアーの利用もみられた。



カムイワッカ2の滝 9月2日

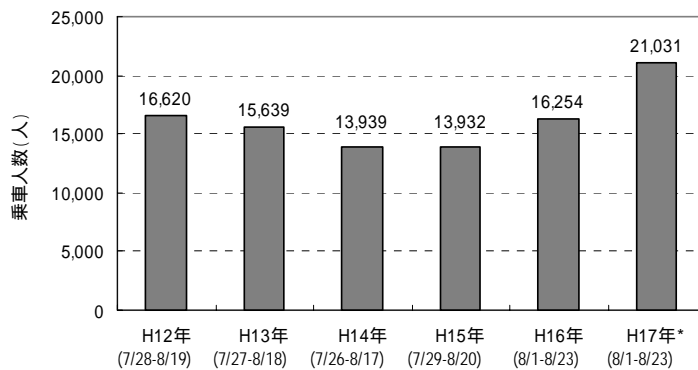


図5 . シャトルバス乗車人数(23日間の総数)



カムイワッカ4の滝 9月2日

負傷者

沢登り中の負傷事故は前年6件であったのに対し、今年は昨年と同期間(23日間)で15件、70日間では37件発生した。怪我は沢内で転倒した際に擦り傷などを負う程度が多かったが、脱臼や前頭部の出血に至る事例も発生した。ルート上の難易度を知らず足回りなどの装備を十分にもたずにくる人が依然多い状態であり、事前の情報提供が必要とされる。

マナー

巡視員が4の滝より上に行かないよう指導をしているが、静止を振り切り登っていく利用者もいる。中には落石を引き起こし、滝壺に入っている利用者の安全を脅かすケースも確認されている。また、滝壺への飛び込みや、岩への落書き行為も報告されている。

露天商の営業

車両規制の開始当初はワラジを貸す露天商の営業行為が見られたが、例年とは異なり看板などの設置はせず目立たない形での営業であった。その後、環境省のレンジャーが連日指導を行った結果、8月に入ってから、露天商は一切姿を消した。



4の滝横の急斜面を歩く人 9月12日



4の滝付近 岩の落書き 9月2日

3-3. 知床自然センター

駐車台数

カムイワッカ地区自動車通行規制期間中（8/1～8/23）における知床自然センター駐車場の駐車台数は、今年は前年より4,336台（23日間）70日間で増加した（図6）。カムイワッカ地区自動車通行規制期間中は、自然センター駐車場にシャトルバス利用者の車が駐車され、自然センターを利用する人が駐車できない状況が発生した。

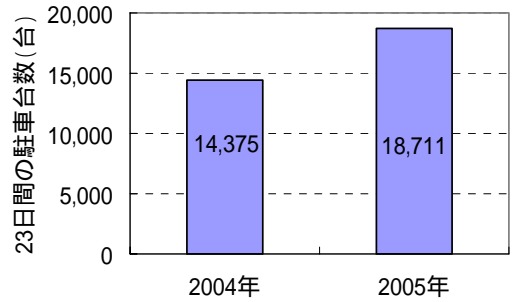


図6. 8/1～8/23の23日間における知床自然センター駐車場の駐車台数



自然センター駐車場 8月13日



自然センター臨時臨時駐車場 9月20日

利用者数

知床自然センターの入館者数の変化は正確には把握されていないが、ダイナビジョン映像の利用者数より、おおまかな利用者数の動向をみることが出来る。前年と比べ、ダイナビジョン利用者は8月以降に大幅に増加した。9月以降は団体客の増加が目立った（図7）。また、知床の観光に関する電話での問合せも急増し、インフォメーションカウンターでの対応や電話対応が途切れなく続く状況が多く発生した。



知床自然センター インフォメーション前 9月15日

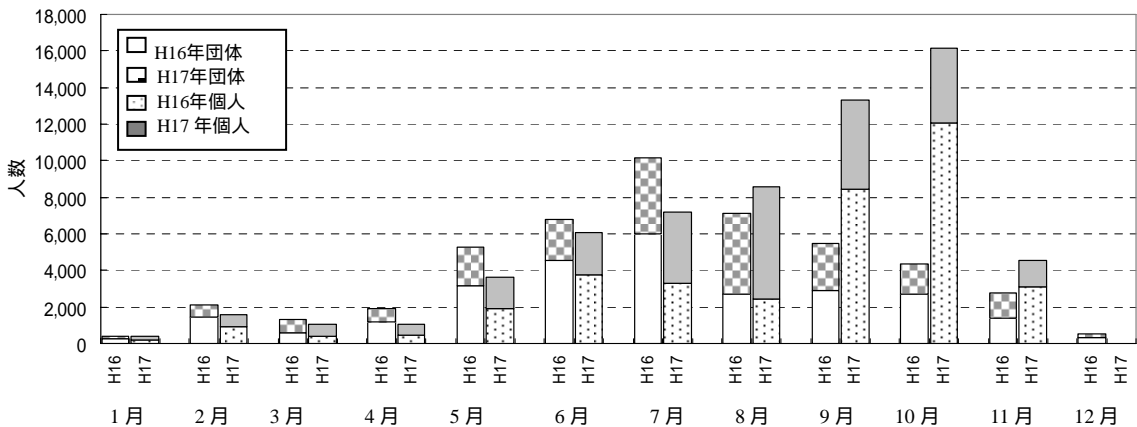


図7. 知床自然センター ダイナビジョン利用者数

*平成17年11月24日までの数字

3 - 4 . 知床連山

登山道利用者

今年の知床連山登山道の利用者の総数は、前年と同程度であったと推定される(表7)。行き先別にみると、昨年と比べ今年は羅臼岳の日帰り登山が増加した。一方、硫黄山への縦走者数が減少した。縦走者の減少は、カムイワッカ地区の落石防止工事に伴う車両の通行規制により、硫黄山登山口を利用できる期間が7月13日から9月20日までと昨年より短くなったことが影響していると思われる。

表7. カウンターによる総入山者数と総下山者数の測定結果(6月17日～10月31日)

カウンターの通称	平成16年		平成17年	
	総入山者数	総下山者数	総入山者数	総下山者数
岩尾別	8,469	7,640	8,669	8,141
硫黄山	987	1,635	776	227
湯ノ沢	614	615	498	463
合計	10,070	9,890	9,943	8,831
差		180		1,112
差/総入山者数のうち、大きいほうのカウンタ数		1.8%		11.2%

* 平成17年の硫黄山でのカウント期間は7月13日から9月20日まで(カムイワッカ地区の自動車通行規制のため)
* カウンターの捕捉率 岩尾別 平成16年：入山0.96、下山0.93、平成17年：下山0.91～0.98
湯ノ沢 平成17年：入山0.97、下山0.91

岩尾別登山口付近の路上駐車状況

岩尾別登山口付近(ホテル地の涯駐車場に至るまで)の町道岩尾別温泉道路における路上駐車の数、今年は7月の連休(7/16～18)と8月上～中旬に増加する傾向が見られた。特に7月17日の路上駐車台数は112台で、前年の2倍近くとなった(図8)。



岩尾別登山口付近 登山客による路上駐車
8月16日 ©環境省

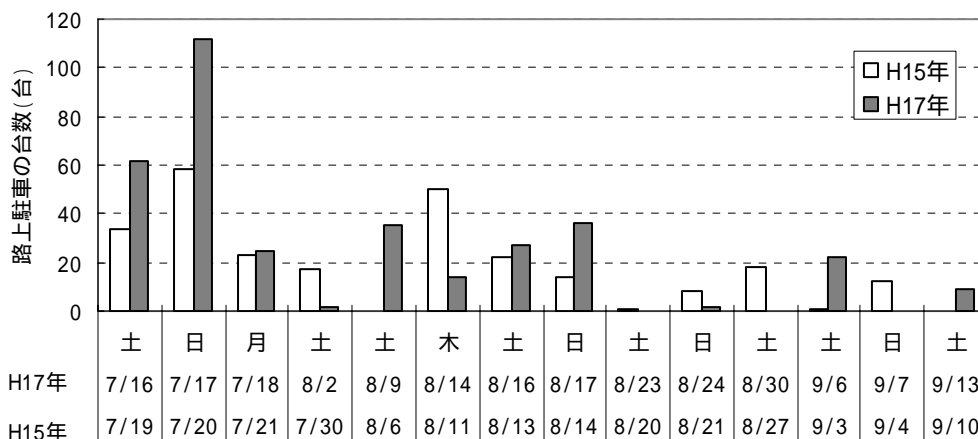


図8. 岩尾別温泉登山口 路上駐車台数 年別比較

3 - 5 . 羅臼湖

羅臼湖登山道の推定利用者数は、前年はおよそ 5,700 人であったのに対し、今年は約 7,000 人と 20%程度増加したと思われる。団体客の利用も増加していると思われ、今年に入り歩道の複線化が見られるようになった。水はけの悪い窪地で木道が設置されていない箇所では、歩道の泥濘化も顕著になった。昨年は長靴でも通れた箇所が、今年の融雪時期には長靴でも浸水する程に泥濘化したことが確認されている。



羅臼湖登山道入口 国道沿いの路上駐車



羅臼湖登山道入口 国道を横断する団体利用者



羅臼湖登山道 混雑状況 9月16日



羅臼湖登山道 歩道の侵食 10月7日



羅臼湖登山道 歩道の複線化



羅臼湖登山道 歩道の泥濘化

3 - 6 . 羅臼ビジターセンター

今年の利用者数は、5～6月は前年より減少したが、7月以降に4～15%増加した(表8、図9)。また、羅臼岳や羅臼湖に関する電話での問合せや、テレビや雑誌などメディアからの取材対応依頼が急増した。外国人利用者も増加傾向にある。

表8. 羅臼ビジターセンターの利用者数(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H16年	96	244	198	191	621	869	1,287	1,684	1,093	1,153	232	107
H17年	106	355	262	220	457	858	1,402	1,833	1,258	1,201		
増減	10	111	64	29	164	11	115	149	165	48		
%	110%	145%	132%	115%	74%	99%	109%	109%	115%	104%		

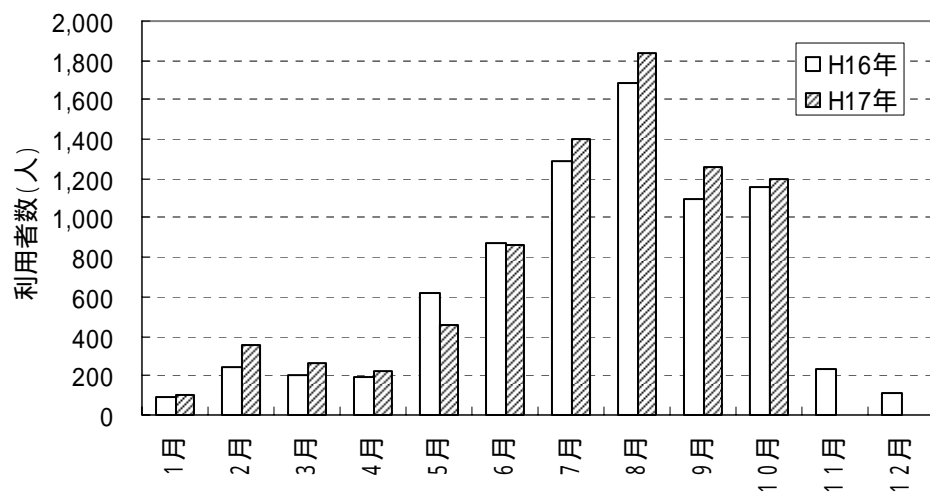


図9. 羅臼ビジターセンター 利用者数

3 - 7 . 国道 334 号および道道知床公園線の道路沿線など

野生動物の観察、餌やり

今年には知床の自然や観光を取り扱うテレビ番組や雑誌が多かったためか、野生動物の観察を目当てに訪れる利用者も多く見られた。エゾシカやキタキツネへの接近行為は後を絶たず、観光客がヒグマに餌を投げ与えていたとの情報も 2 件報告された。岩尾別川沿いの道路ではヒグマを撮影するため長期滞在するカメラマンが多く見られ、その周りに一般利用者が集まり渋滞となる事もあった。岩尾別温泉道路付近ではヒグマに接近しすぎたカメラマンが威嚇されるケースも発生している。また、岩尾別孵化場敷地に入り、至近距離でヒグマを観察する人も後を絶たない状況であった(孵化場では作業の都合上、ゲートを開放している場合が多い)。

夜間の動物観察

幌別橋から知床五湖にかけての道路沿線では、夜間に星空や動物の観察を目的とした利用が増加した。現在、同区域で夜の動物観察プログラムを行なっている事業者は 7 団体あり、この他に少数ではあるが個人利用者の車両もみられ、その数は昨年よりも増加した。その結果、多いときには一晩で 20 台以上の車両(バスを含む)がライトを照らしながら動物を探す状況となっている。



エゾシカに接近する観光客(知床五湖遊歩道入口付近) 11月18日



岩尾別温泉道路 クマを待つカメラマン 10月16日



キツネに接近する観光客(プユニ岬付近) 11月18日



岩尾別河口を見下ろす道路脇でクマを待つカメラマン 10月9日



岩尾別河口を見下ろす道道でクマを待つ見物客と路上駐車(20台以上)により発生した渋滞 10月9日

3 - 8 . 斜里側海域部

観光船の利用状況

以前より斜里側の海域部では、断崖や滝、海鳥の繁殖エリアに近づくために申請航路から外れた航行を行う観光船が存在し、問題となっている。今年は6月23日および7月1日に斜里側の海域において観光船の事故が2件発生した。これを受けて運輸局が観光船業者に対する特別監査を実施し、問題航行に対する指導を7月14日に行なった。指導直後は断崖から一定距離をおいた航行が行なわれていたが、1ヵ月後には指導前と同じ航行状態に戻っていることが確認されている。また、現在でも看板やホームページなどで、岸のぎりぎりまで接近することをアピールする業者が存在する。

海鳥営巣地への接近・追い回し

希少種に指定されているケイマフリの営巣地がある五湖の断崖に3mまで船を近づける業者もいた。また、この場所は見所の一つとなっており、各社の船が交代で接近し2~3分滞在する状況であった。ウミウの営巣地へは最大15m接近している状況が確認されている。



男の浜付近 8月8日



五湖の断崖付近 8月8日

カモメへの餌やり

今年も観光船業者によるカモメ用の餌の販売と乗客による餌やりが行なわれていたが、7月7日におこなわれた環境省による観光船の運航に伴う野生動物への影響回避に関する要請の効果もあり、知床が遺産登録されて以降は餌の販売を自粛する業者が増えた。8月下旬の時点では全ての観光船業者がカモメの餌の販売を中止していた。

騒音

どの船もエンジン音が大きく、大音量でアナウンスをしたり音楽を流す船もあるため、海鳥の繁殖への影響が心配される。また、シーカヤッカーなど他の利用者の自然体験の質を損なうことも考えられる。



カモメへの餌やり 7月12日